HONEY CAGE

カティア姫

この遠征を終えたら…
騎士としてだけではなく
一人の男として

スッ…

トゥンク♥

ずっと君の隣に…
居させてはくれないか

キラッ

深き森に住まうエルフ族―
彼らは魔の力に影響されない体質と
人間族との友好関係によって
その平穏を保ち続けてきた

若くして病没した王が遺した
一人娘カティア姫と
騎士長ユリアン結婚の報せに
指導者を失っていた国民は
大いに沸いた

しかし

人軍の援軍要請に応えた
騎士団が不在の中
一部の人間族が魔族と結託し
エルフ領を強襲―

女子供も全てが捕えられ
捕虜となったが
王女であるカティアの姿は
その中に無かった

何を仰るのです
カティア姫!?

和平交渉など！相手は魔族に魂を売るような輩ですぞ
しかしそれでは捕虜になった皆は!!年寄りや幼子もいるのに……
あと十日も経てばユリアン殿が部隊を連れて戻るはず…それまで耐えるのです
民については…やむを得ますまい姫の安全が第一
そんなっ
ユリアン…
私に勇気を…！
……ごめんなさい!!
あっ!!姫様っ!?

コツッ
ゴゴゴゴ…
それで？
エルフの王女様が自ら出向いての用件は？
ロットン将軍！どうか民の解放を…
老人や赤子まで捕らえる必要がどこにありましょう!!
捕虜が必要ならば王族であるこの私が代わりに…
ニヤリ
ククッ…
クハハハッ!!
な…何がおかしいのです!!

性に疎いエルフの生娘には分からんか
でなければ単身出向くような愚行は冒せまい
教えてやる
儂がエルフ領を攻めた目的はな
貴様一人だけなのだよ
…え？
なっ!?
貴様が手に入れば捕虜の処遇などどうでも良い…
自ら檻に飛び込むとは愚かであったな姫よ
なにをっ
…っ
…そうだ
それが正解だ

駄目…

今この男の機嫌を損ねては…でも…！

こんな…こんな事のために魔族に降り…

国を攻めたと仰るのですか…っ

降ったのでは無い

利害関係による同盟だ

まぁそう憤るな

魔族共の手前本来エルフは皆殺しにせねばならん所だ

それを貴様という小娘一人が儂の物になるだけで

捕虜の奴らを解放してやろうというのだぞ

むにぃ…

そのお言葉決して違えぬよう…

儂は約束は守る男だ

お人好しのマヌケめ…

ちゅぷ…

ちゅぷ…

んっ…

ぢゅるッ

固まっていないで舌を出せ

べぐっ…

んぢっ…

ぢゅぷ

あ…あぁっ…

中に入って…っ

んッ!?

びくっ

ぴちゃっ

ぢゅぷ…

やだ…嫌だよユリアン…っ

んむッ

はーっ

はーっ

あ…あうあ…

私が…汚れていく…

ぢゅぽっ…

助けて…！

ぶぎぎッ

っ!?

ぶぐっ!!

待っ…

お待ちを…っ！どうかそれだけはご容赦を…

…何故だ？

婚儀まで純潔を守るのがエルフの掟

王女である私とて…例外ではありません

身勝手なお願いであることは承知しております…

ですがどうか…どうかお慈悲を…っ

…ほう

よかろう

貴様が掟を破り王女でなくなっては儂も困る…人質の意味を失うからな

だが…

貞操以外は全て儂に捧げよ

…それが貴様の願いを受ける条件だ

あ…ありがとうございますっ…

よかった…後はとにかく時間を稼げば

ユリアンがきっと…

ついて来い

こ…こんな破廉恥な格好…
ククッ…似合っているぞ姫よ
まるで娼婦ではないか
こちらを向け
はい…ロットン様
来い
儂が貴様に快楽というものを教えてやる
恥ずかしくて頭がおかしくなりそう…
失礼します…

もっと股を開け
やっ…
裸同然の格好でこれ以上何を恥じ入ることがあるか
ぷるんっ♡
ぎゅっ
ぎゅっ
ひっ…
や…何ですかこれ…っ
マッサージ用のスライムオイルだお姫様をリラックスさせてやろうと思ってな…
はっ
はっ
ぬり
ぬり
こんなの…ぬるぬるして気持ち悪いだけです…
なぁにじきに慣れてくる

あ…あれっ…

触れられるのも嫌なはず…なのに

本当にマッサージのようで

スッ…

気持ちよく…なって…

トロン…

ぐぱっ

んッ!?

ぐぱぁ

…ほう?

ドキ

ロットン様っそ…そのような汚いところは…

ドキ

エルフ族は寿命が長い故に性感が鈍いと聞いたが…
(いつでも産める)

ぶぷっ

んひっ!?

貴様のような生娘でも尻穴は排泄の刺激で起きているのだな

びくっ

んっ…く…

ずりずり

んぐっ♥

くくっ…面白い

ぬぽ

ほぉっ♥

だめ…ぇっ

おっ♥

そんなっ私…お…お尻の穴でなんてっ

ぷっ♥

かくかくっ

ぬぽぬぽ

ぬぽぬぽ

ぬぽぬぽ

自分の体に訊いてみよ
悦びに打ち震えているではないか
いっ嫌…
…ひッ
なんでっ…さっきまでとぜんぜん…違っ
なっ…なにこれぇっ♥
体が敏感になって…!?
ふむ…右の乳首も感度が良いな
性感帯を刺激され本性が目覚めたのだ
ほん…しょう?
そうだ
今まで知らずにいただけでこれが貴様の本当の姿…
卑しく快楽を貪る雌豚だ
自覚しろ
そしてどこまでも堕ちてゆけ…

この儂が導いてやろう
認めろ！快楽に身を委ねてみよ！
ユリアン…私…頑張るから…っ
嫌…ですっんんっっ!!
ぶっ♡
ぶッ♡
ギリッ。
こんな…のッぜんぜん…おっ♥
意地を張るな
今までの自分など忘れて初イキをケツアクメで迎えてしまえ!!
ぶるッ♡
ぎッ♡
びくっ♡
ぐッ♡
ぐぐッ
ぐっ
ぬぷっ
ぬぷっ
ぐっ
んッ…おっ♥
ぐっ♡
ぐッ♡
ぐッ♡
ぐッ

二日目

ぜ…全部入りまひた…ぁ

クク…貴様の尻穴も馴染んできたではないか

ではそのままフェラチオをしろ教えた通りにな

はひ…っ

ロットン様のお…っおちんぽ…頂きます

ぎゅッ

ぎンッ

んふぅ♥

ふぅっ♥

ぷるぷる

ぷるぷる

ぽたッ…

みちっ…♥

きゃ♥

きゃッ♥

なんだろうこの匂い…何故かわからないけど

はっ♥

くんくんっ

はっ♥

好き…かも…癖になっちゃう

すん

きゅっ

ふたっ♥

これが男の人の…おちんぽ…

はむっ♥

じゅっ

じゅる♥

くっ…良いぞ…！初めてにしては上出来だ

どうだ？コイツを貴様のケツ穴にブチ込めば
そんな貧相な玩具とは比べ物にならん快楽を味あわせてやるぞ
…ッ
これを…おしりにっ
そ…そんなのっ
ぜったいきもちいぃ…♥
そうだっチンポに吸い付け
欲しい…
おちんぽ入れたい…っ♥
出すぞ…ッ
貴様も尻のソレをひり出せっ！

んぶっ…
ぴくっ
あぁ…
駄目…♥
はぁ…♥
知りたい…
おちんぽの味…
あっ…
お…
お尻で…
[redacted]
むりっ
じゅうっ♥
むりっ♥
お…♥
…そろそろ
トドメだな
ん…
ん♡
あ♡
三日目
ククッ…
撫でるだけで
腰が跳ねて
いるぞ
物欲しそうな
顔をしおって…
そらケツを出せ
すり
すり
ぴくっ
ん…♥
キャッ♥
たらぁ♥
ぴくっ♥
ふー♥
ふー♥
…っ♥
ドキッ
そろそろ
ホンモノを
味わわせてやる
くちゅ♥
あぁっ…
おちんぽが
狙い定めてる…
さぁ…
淫欲の果てへ
連れて行ってやる
入れちゃうんだ…
わたしのお尻…
け…
ケツマンコに…っ♥
はァ…
はァ…
ゾクッ♥…

ぷ…♡
ぷぷ
ぶぷ♡ びくっ♡
ズッ…
来る…♡
あっ あっ…
びくっ
おっ♡
びくっ
びくっ♡
まだくる…っ♡
ぬぷぷん♡
あっ
おッ…♡
奥っ…う!?
ゾクッ♡
あおっ!?♡
うそっ…深いっ♡
無理っ…こんなのむりいっ♡
待っ!?
ズルルッ♡ ぷしゅっ♡
じゅぽっ
ぴゅっ…
じょぼぼぼ♡
いま抜いちゃ…
おほおおっ♡
ガクッ
…ッ♡
ガクッ♡

一突きで失禁かどうだ？気持ちよかろう
前にも栓が必要か？
だっ駄目…それは絶対らめっ♥
ユリアン助けて…助けてぇっ…
こんなの…耐えられるわけないっ…♥
落ちるっ…おちんぽに征服されちゃう…♥
己の卑しい本性を認めるのだ！
そうだもっと喘げ！もっと乱れろ！
そんな貴様を儂はどこまでも愛してやるぞ

認めましゅ…！
好きぃっ♥
ケ…ケツ穴ずぽずぽされるの大好きっ♥
ぐリ
ぐリ
ケツハメしておもらししちゃうロットン様専用の変態どれいですっ♥
はひっ♡
はひっ♡
ちょろろろ…♡
…私がご主人様とけつまんこセックスするのは
貴様は何だ？王女か？違うだろう儂に告げてみろ
お♡
ハッ♡
ハッ♡
違うんだよユリアン…
私は…っ
ビクッ…♡
気持ちいいの我慢しようとしたけどむりでしたぁ♥
おちんぽに無条件こーふくいたひまひゅ…っ♥
皆を救う為なの…だから許して…♥
よくぞ言った…ご褒美をくれてやる！
ギミッ

貴様の婚約者も哀れよなっ…アナルファックでアヘ顔晒す貴様を見たらどう思うかっ!?

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぱんッ

ぱんッ

ぱんッ

ぱんッ

ぱん

ぱん

ぱん

■日目
始めろ

おおっ！
ザワッ
あぁっ♥見てる…人間のおじさん達がえっちな目でっ♥
ビキ
ビキ
ふーッ
ふーッ
森のエルフ領は魔物達に滅ぼされたはず…
まさかロットン将軍が救出した中に姫も居たとは
ガヤ
なんという淫らな踊り…我々を誘っているようではないか
ビキ
ガヤ
早く助けに来て…ユリアン
しかしあの貞淑なエルフ族がこうも淫乱に…堪りませんな
ゆっさ
ゆっさ
ふり
ふりっ♥
はやく…っ♥